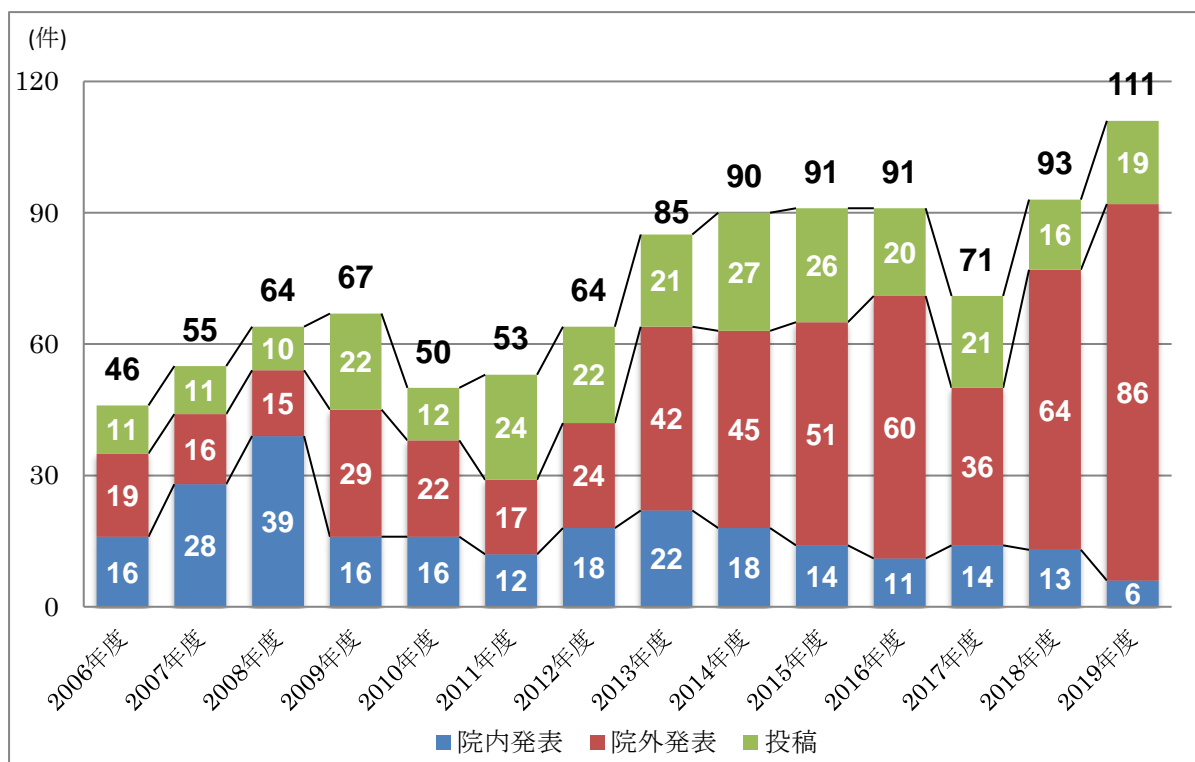


7.5. 看護研究発表数



専門職を謳う看護職では、積極的な研究活動をする事が求められている。

看護部では2013年度より院内外の研究会、学会で発表できるよう支援体制を整備し、特に院外における研究発表は年々増加している。

2014年度には看護部ラダー教育として「看護研究への取り組み」を2コースに分け、段階的に学習を支援した。藤田医科大学保健衛生学部看護学科の教員と協働し、より質の高い研究として取り組みを始めた。2016年度からは文献クリティークを学び、日々の看護実践にエビデンスを持って取り組むことが今後の研究活動となるよう育成を図った。2017年度より院外発表が減少しているが、研究倫理審査を通過するよう研究計画書の作成レベルを上げたことがその一因と考えられる。その結果を反映し2018年度からは研究支援担当者会を設置し一人ひとりの研究支援が充実され、院外での発表に向けて活動を始めたことにより院外発表数は2019年度に最多数となった。2020年度も継続していく。

更に雑誌への執筆・論文の投稿は専門・認定看護師を中心に活動し、多くの全国誌への掲載を通して看護部の活動を発信している。

研究活動は大学病院の看護部の使命であり、現在の状況に満足することなく引き続いて研究を助成する事が看護部に求められている。